

4月例会報告

【日時・会場】2002年4月19日（金）19:15～筑波大学附属高校会議室→～2:30 カリンカ

【参加者（会員）】上間匠（東京大学教育学研究科） 内田正人（B&D） 宇都宮徹尨（写真家） 浦和俊介（刈谷市JFL運営委員会） 北岡真幸（JAWOC国際放送センター協力員） 佐藤冬見（日本サポーター協会） 島原裕司（みすず書房） 田中理恵（日本能率協会総合研究所） 中塚義実（筑波大学附属高校） 広瀬一郎（スポーツ・ナビゲーション） 麓信義（弘前大学教育学部） 松岡耕自（立命館大学国際関係研究科）

【参加者（未会員）】浅野智嗣（JSA） 岩本義和（スポーツ・ナビゲーション） 片岡麻衣子（LOVE JAPAN） 中西敦（LOVE JAPAN／一橋大学早川ゼミ）

【カリンカから参加】川井寿裕（文部科学省競技スポーツ科） 澤井和彦（東京大学） 他数名
注）参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

「SP（サポーターズ・プロジェクト）2002」の提案
宇都宮徹尨

本報告は、浦和俊介氏が作成した報告案をもとに、参加者のチェックを経て公表するものである。

<目次>

<1>「サポーターズ・プロジェクト2002」の提案

1. はじめに
2. 「サポーターズ・プロジェクト2002」提案の理由
3. 想定できる成果物について

<2>「サポーターズ・プロジェクト2002」の作製の流れ

<3>プロジェクト実施のための課題

<4>ディスカッション

<5>ここまでのまとめ

<報告者の感想（浦和俊介）>

<感想・意見（中塚義実）>

<1>「サポーターズ・プロジェクト2002」の提案

1. はじめに

今回の月例会は、宇都宮氏から、98年に自身が行った「サポーターズプロジェクト98」をモデルとし

た、「サポーターズ・プロジェクト2002」をサロン会員が中心となって展開する案が提示され議論された。

2. サポーターズ・プロジェクトとは

国内10の開催都市において、来日したサポーターに写真撮影、アンケート調査を行い、それをネットを使って大会期間中に公開し、大会終了後はアーカイブ化することで、サロンとしてワールドカップに参加しようという試みである。

98年に宇都宮氏は、4人のスタッフとともにフランスにて同様の試みを実行、『サポーター新世紀』を出版し、各地で写真展も行われた。

各団体の活動概要は以下のとおり（議事録より一部抜粋）。

3. 「サポータープロジェクト2002」提案の理由

ワールドカップも近づいてきてメディアでも取り上げられることが多くなってきた。しかしそこで取り上げられるのは偏った情報ばかり。イングランド＝フーリガン？ メディアによってステレオタイプが増幅されてはいないか？ 純粋なサッカーファンが楽しめるのか？ という疑問が生まれた。

そこで、98年のサポータープロジェクトで得た経験を2002年に多くのサロンメンバーが体験、共有することで、ワールドカップやサッカーライフが楽しめるのではないか。さらに言えばサロンという組織を生かしてただ参加するだけではなく何か社会的に価値のある成果物を残しサロンの財産とできるのでは、と考えた。

4. 想定できる成果物について

想定できる成果物として一つ目は、Webを使って速報的に多くの人にワールドカップの人間模様を伝えること。

二つ目はサポーターの声をネットによってJAWOCをはじめとするワールドカップスタッフに伝えてサービスの向上が果たせるのではないかとということ。

三つ目は、そうして集めた証言がサロンの財産（サッカー人類図鑑）となり、収集、整理することがサロンの財産となること。

四つ目は、サポータープロジェクトを通じて人的なつながり、多様な経験を得ることができること。

以上のことからサロンとして取り組む価値があるのではないかと提案された。

<2>「サポータープロジェクト2002」の作製の流れ（案）

1. 概要

プロジェクトの具体的な活動としては、ワールドカップ各会場でサポーターと接触、本人の了解を得た上でデジタルカメラでの撮影とアンケート調査を行い、写真はそのまま、アンケートは翻訳作業を経た後に、スポーツナビゲーションのワールドカップページに掲載する。

ワールドカップ後は、サロン HP 内にプロジェクトのアーカイブページを作成し掲載する。

2. プロジェクトの流れ（案）

各会場でデジカメ、アンケート用紙を用いてサポーターに調査を依頼

↓

画像データをスポーツナビへ、アンケートは（ボランティア）翻訳スタッフに。翻訳スタッフは英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語くらいでいいのでは？（出場国すべての言語のスタッフをそろえなくても前記4つくらいが流通しているはず）。それをなるべく編集することなくアップ。

想定される読者は、日本人のサッカーファン、ワールドカップ関係者。

↓

スポーツナビ・ワールドカップページ上もしくはスポーツナビからリンクを張ってもらいサロン2002 HP 上に公開

<3>プロジェクト実施のための課題

プロジェクト実施に際し以下のような問題が想定されており質疑応答での確認を行った。

1. サロン2002で実行することについてのコンセンサス

サロン2002として活動すべきか？会員のなかで月例会に参加できている人ばかりではない。サロンのつながりを生かしながら個人の活動として行うべきか。

2. スタッフのスケジュール、所有機材の確認

大会期間中、誰が会場に行くのか？デジカメ、モバイル機材を誰が持っているのか？

3. 翻訳スタッフの確保

英、仏、独、西をボランティアで。現時点では確保できていない。間に合うのか？

4. 質問内容の吟味とスタッフに対するノウハウの伝授

写真撮影、アンケート取材のノウハウに関して宇都宮氏は協力する。MLなどを使って情報の共有化を行う。

開催国として何を発信すべきかを考えて質問を吟味する必要がある。拘束時間は10分程度。興味深く、答えられるものを11個をめぐり（サッカーは11人だから？）に考える必要がある。98年では11個くらいが限界だった（被験者はサッカーを見に来ている。アンケート取材に答えるために来ているわけではない）

<4>ディスカッション

Q サロンのワールドカップに向けての活動は吟味されてきているのか？ それとも宇都宮氏のアイデアが突然出てきたのか？

A サロンとしては人材を生かしてなにかやりたい。現在のプランとしてHP上で物語を集めようという話があがっている。しかし、どうやって物語を集めるかについて苦慮している。このプロジェクトはサポーターの物語を集めることにつながるだろう。サロンとしてのワールドカップへの動きとして妥当ではないかと考える。

Q ワールドカップ・プロジェクトII（物語集め）と並立できないのか？ 動ける人材はワールドカップ・プロジェクトに参加している。

A サロンで行っている物語集めにも限界がある。誰がいつ書くのか？ 効果的に集める方法としても検討できないか？

Q 肖像権（写真）、著作権（アンケート）をどうするのか？法人格のないサロンができるのか？アーカイブ化の際の手間を誰が見るのか？

Q スタッフの所有機材（モバイル、デジカメの有無、通信環境など）の差をどうするのか？

A 写真はデジカメが望ましい。映像の有無の差は大きい。しかし数日間でのアップを考えている。即日ではないので銀塩写真でもかまわない。

Q 出版でもそうだが編集の方針、読者の興味をどう想定するのか？

Q 32カ国のサポーターが必要なのか？

A 日本にくるチームだけでもグループリーグで16、そのほかあわせて20-25カ国ある。一カ国3人でも60-70人。十分な数だと考えられる。無理に32カ国集める必要はない。韓国で試合をしている国に関してはセカンドラウンドに入り来日したときに取材すればいい。

Q HPアップ時のデザインは案があるのか？ アーカイブ化の際はどうか？

A ワールドカップ期間中のデザインなどはスポーツナビで検討している。『サポーター新世紀』に類似した感じで。アーカイブについてはまたその時に考える。サロンの方でアーカイブのデザインの方はお願いしたい。スポーツナビの方からリンクは張る。

Q 人、モノはどうするのか？JSA など既存のネットワークとの連携は？実際に動けるような人いるのか？

A フォーマットを先に決定しておき、それぞれのベニューの有志に協力を依頼する。横浜の人は横浜で、鹿島の人は鹿島で収集していただければいい。この際どのレベルのネットワークを活用するのか？

Q どの範囲まで協力してもらうのか？サロン2002の名前を悪用される可能性もある。サッカーファンがみんないい人とは限らない。そのような場合責任の所在をどうするのか？また、例えばイングランド対アルゼンチンのような試合の場合、周辺にも危険はある。いろいろな問題に対してサロン自体には責任能力はない。どうすればいいのか？

A サロンは任意団体なのでプロジェクトに対しては自己責任、自己負担でおねがいしたい。そのためにも各地の団体とのネットワーク作りも必要。しかし責任の負える範囲内で。サロンの名前を悪用される可能性もないとはいえない。JSA、アライアンス2002辺りまでは分かるが、会員の個人的なネットワークをどう活用するのか？

<5>ここまでのまとめ

これまでの議論で4つくらいの目的が見えてきたのだが、一つ目はサロンメンバーがワールドカップに関わる。二つ目は海外からくるファンへの手助け、三つ目は活動を通じての個人的なネットワークの拡

大、四つ目は事後の日本のスポーツ界に対する啓蒙活動。

あまりに多岐にわたっていて方向性がばらばらなのでサロンとしてある意味の割り切り、方向性の確認が必要である。しかしサロンは緩やかな集まりなのでサロンとして方向性を出すことはしない。

今回の月例会として、サポータープロジェクトは何らかの形で実現し、それぞれのワールドカップでの経験をアーカイブ化する方向で動くことにする。

ここからは有志でプロジェクトを起こしその場でつめていく。随時ワールドカップ・プロジェクト ML、サロン ML で情報を公開し協力を募る。

以上の方向性が確認された。

<報告者の感想（浦和俊介）>

社会人にとって報告書作製はかなり苦痛だと思います。手間、暇ともかなりかかります（2－3時間くらい）。しかし学生なら時間の融通も利くでしょう。サロンに[Give and Take]の関係をもついい機会だと思います。カリンカでの飲み代を稼いで心地よくサロンに参加できるいい機会だと思うので私だけではなく多くの学生会員が報告書作製にも関わって行ってほしいです。

<感想・意見（中塚義実）>

「サポーターズ・プロジェクト 98」については、私にもいろんな思い出がある。宇都宮さんからはじめてこの企画を聞いたとき、「4年後にこの国にやってくるのはジダンやロナウドだけではない。世界中からやってくるサポーターの素顔を日本人に伝えたい」という言葉を新鮮に感じたものだ。リヨンやサンテチエンヌでの宇都宮さん一行との再会は、初めてのワールドカップ観戦の楽しい思い出となっている。私自身が「日本人代表」として取材される立場になろうとは夢にも思わなかったが、『サポーター新世紀』に登場する自分を見るのはうれしくもあり、恥ずかしくもあり…。

実は 2002 年を目前にして、「サポーターズ・プロジェクト」といった関わり方があることをすっかり忘れていた。今回のレポートは私からの申し入れであったが、それは、「サポーター」を切り口にして4年前を思い出し、来るべき大会のイメージを膨らませようといった軽い気持ちからだった。しかしさすが宇都宮さん。「サポーターズ・プロジェクト 2002」という大変魅力的な提案をされ、私自身、「ワールドカップの素直な楽しみ方」を思い出すことができた。

だから、とにかくやりましょう！ これがまず思ったこと。

しかしながら今回の議論は、思わぬ方向に向かっていった。「肖像権（写真）、著作権（アンケート）をど

うするのか」「誰が主体となって取り組むのか。責任の所在は」「誰が諸々の作業に取り組むのか」「できあがったものの所有者は誰になるのか。2次利用は可能か」、はたまた「サロンの"財産"が一営利団体である他社のサイトに掲載されることは認められるのか」…。

個人的には、主体的に取り組もうとする人や団体をサポートする意味で、サロンが受け皿になってかまわないと思っている。しかし、「サロンが"財産"を持つことにあまり賛成できない」という指摘ももっともだと思う。「サロンはあくまでも課題を見出し、共通の志を持つ仲間と出会う場にとどめるべきである」ということだろう。こういった立場も尊重すべきであるし、方向づけについてはもう少し議論する必要がある。会員一人ひとりがサロン 2002 なのである。いろんな立場や考え方があっていい。

ちょうど今、サロンの公式ML上で展開されている、フットサルプロジェクトⅡの立ち上げに関する議論もこれと同種である。サロン 2002（またはそのプロジェクト）で何らかの"研究"に取り組んだ場合、得られたデータの所有者は誰か、そして、データを利用して論文を書いたり発表することは、どの範囲まで認められるのか…。

結局はやはり、サロン 2002 とは何か、どうあるべきかに行き着くのである。

サロン 2002 は、21 世紀のスポーツをささえる大きな存在となる可能性を持っている。「ゆるやかなネットワーク」は、個々の会員が様々な場面につながり、実質的な影響力を持つようになる可能性がある。そしてさらに、組織としてのサロン 2002 がある種の権威となり、そこが影響力を持つ可能性もある。後者については、「サロンがやっているのなら」と評価してもらえ一方で、利用される可能性も警戒しなくてはならない。今回の議論でそこまで先を読んで発言されていたのかどうかは知らないが、サロンが"財産"を保有することは、「ゆるやかなネットワーク」でしかなかったこの組織が、一步、歩みを始めたということでもある。そして実は、この一步は、サロンがHPを持ち、そこに"財産"を蓄積できるようになったところから始まっているのである。